

えにしの日・えにし週間 キックオフ事業

第35回 滋賀県社会福祉学会 プログラム

開催日 ●平成29年3月9日(木)
会場 ●滋賀県立長寿社会福祉センター
定員 ●400名

災害時に生き抜く力

主催 滋賀県社会福祉学会
(事務局 滋賀県社会福祉協議会)

1 参加対象

*社会福祉事業従事者 *医療・保健関係者 *教育関係者 *企業・団体関係者
*ボランティア *地域福祉活動実践者 *学生 *福祉に関心のある人

2 参加費 ※当日、受付でお支払いください

・一般参加・発表参加者 1,200円
・大学・短大・専門学校等学生 1,000円
・高校生以下 無 料

3 参加方法

「一般参加申込書」に必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

募集案内は、県社協のホームページ (<http://www.shigashakyo.jp/>) からダウンロードできます。

4 参加申込締切 平成29年2月28日(火)

※但し、定員(400名)に満たない場合は、締切日を越えても受け付けますので、お問い合わせください。

5 日程

9:00～9:30	受付	12:15～13:10	昼食・休憩
9:30～9:45	開会・オリエンテーション	13:10～16:30	自由研究発表(分科会)
9:45～12:15	全体プログラム		※各分科会により終了時間が異なります

6 内容

1. 全体プログラム (9:45～12:15)

《テーマ》

災害時に生き抜く力

《趣旨》

平成28年4月に発災した熊本地震においては、東日本大震災での状況と同様に障害者等配慮が必要な方の安否確認や困っていることの把握が進まず、支援者が支援に苦慮している状況や避難所に入りたくても入れない障害者の姿が報道されました。

災害時には、被災者全員の生活が脅かされ、配慮を必要とする人が拡大し、障害者の生活も平常時より困難になっていきます。しかしそのなかで、障害者自身が支える側となり地域の人びとと共にまちの復旧・復興の力となっていく姿が被災地にあったことも事実です。災害があっても生き抜けるコミュニティをつくっていきたくて多くの人たちが心を動かされました。

滋賀県では、県と滋賀の縁創造実践センターが主唱者となり、今年度から東日本大震災が起きた3月11日を「えにしの日」と決めました。「えにしの日」は、県内の各地でさまざまな立場の人たちが何か一つでも、いざというときの行動を実際に行ってみることで、災害があっても皆で生き抜く力を上げていこうという思いから呼びかけるものです。

第35回滋賀県社会福祉学会は、「えにしの日」の集中取組み期間である「えにし週間」(3月9日から3月15日)のキックオフ事業と位置づけ、開催いたします。熊本地震、そして阪神・淡路大震災の経験から「共に生きる地域づくり」をお話くださる方々をお招きし、滋賀県内の実践者とともに災害とコミュニティ、私たちのための私たちによる取組みを学び、それぞれの地域に持ち帰る場としたいと思います。

《内容》 ● 第1部 基調講演

NPO法人 にしはらたんぼぼハウス(熊本県阿蘇郡西原村) 施設長

上村 加代子さん

● 第2部 シンポジウム 上記講演を受けて、テーマを深めるシンポジウムを行います。

★シンポジスト 高木 節子さん(滋賀県自閉症協会 事務局代行)

井岡 仁志さん(社会福祉法人 高島市社会福祉協議会 常務理事・事務局長)

清水 明彦さん(社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会 常務理事)

上村 加代子さん(NPO法人 にしはらたんぼぼハウス 施設長)

渡邊 光春さん(滋賀の縁創造実践センター 代表理事/滋賀県社会福祉協議会 会長)

★コーディネーター 安田 誠人さん(大谷大学文学部 教授)

登壇者の紹介

● 第1部 基調講演

上村 加代子 (うえむら かよこ) さん

NPO法人 にしはらたんぽぽハウス 施設長

にしはらたんぽぽハウス施設長。中学校の旧生徒寄宿舎を改修し、地域活動支援センターや地域の縁がわ「交流サロンたんぽぽ」を展開。熊本地震では炊き出し活動に取り組み、訪問活動等で障がい者のニーズ把握につとめた。



● 第2部 シンポジウム

高木 節子 (たかぎ せつこ) さん

滋賀県自閉症協会 事務局代行

1983年(昭和58年)次男誕生。長男の時とは違う次男の成長に母親として戸惑う。保育園入園前には戸惑いの子育てから違和感を覚える子育てとなり相談機関に向かうようになる。その後も違和感の中での子育ては続く。次男10歳の時に自閉症の事を理解する糸口を見つけるため(社)日本自閉症協会滋賀県支部へ入会。(社)日本自閉症協会滋賀県支部は2008年(平成20年)に滋賀県自閉症協会となり、現在33歳の次男の母親として会員歴は20数年となる。福祉を取り巻く状況は大きく変化したが、豊かな人の輪を育み地域で当事者が主体的に活動できるよう、また、共生社会の中で生活できる環境づくりの実現を目指して活動を継続中である。



井岡 仁志 (いおか ひとし) さん

社会福祉法人高島市社会福祉協議会 常務理事/事務局長 社会福祉士

奈良市生まれ。広告制作、FMラジオ局の仕事を経て、30代で滋賀県朽木村(当時)に移住。財団法人森林文化協会の職員として活動後、2003年に朽木村社協に入職。2005年合併に伴い高島市社協職員として地域福祉・ボランティアセンター業務を経て、2015年より現職。

認定NPO法人 日本ボランティアコーディネーター協会 理事(2012~2015)

社会福祉法人 大阪ボランティア協会 評議員(2014~)

全国ボランティア・市民活動振興センター運営委員会委員(全社協)(2015~2016)

厚生労働省「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会」委員(2016~)



清水 明彦 (しみず あきひこ) さん

社会福祉法人西宮市社会福祉協議会 常務理事

1974年より、西宮市において市内重度障害者の家庭訪問活動に参加。西宮の重症心身障害者の集まり「未就学在宅者のつどい」の発足に関わる。1978年より、障害が重く社会参加の場を見出せない学校教育終了者の社会教育の場「生活教室」の職員に。1981年、これらが統合される中で、西宮市独自の重度障害者の地域活動拠点「青葉園」が西宮市社会福祉協議会の運営により成立。成立と同時に西宮市社会福祉協議会職員として同園スタッフに。1991年より2001年まで同園園長。その後「青葉園」と「障害者生活相談・支援センター」の運営を担当する障害者生活支援グループ長。2013年より事務局長兼障害者相談体制整備室室長。2015年より常務理事。



渡邊 光春 (わたなべ みつはる) さん

滋賀の縁創造実践センター代表理事/滋賀県社会福祉協議会 会長

昭和49年4月に滋賀県庁入庁。平成16年4月から、レイカディア推進課長、障害福祉課長、子ども・青少年局長を歴任。平成23年4月からは健康福祉部長として、滋賀県の健康福祉・医療行政の推進にリーダーシップを発揮した。平成25年3月に滋賀県庁を退職し、同年5月から県社会福祉協議会会長。



● 第2部 シンポジウム

安田 誠人 (やすだ よしと) さん

大谷大学文学部 教授

1967年三重県生まれ。1991年三重大学教育学部卒業。1993年三重大学大学院教育学研究科修士課程修了(教育学修士)。1993年厚生省(現厚生労働省)厚生技官児童指導員。2002年滋賀文化短期大学人間福祉学科専任講師。2005年滋賀文化短期大学人間福祉学科助教授。2009年びわこ学院大学教育福祉学部子ども学科准教授。2013年大谷大学短期大学部幼児教育保育科教授。2014年大谷大学文学部教育・心理学科教授着任。



2. 自由研究発表(分科会) (13:10 ~ 16:30)

自由研究発表は、社会福祉関係者が、日頃から行っている活動や他に先駆けて実施している取り組みを発表し、関係者みんなで検討しあう貴重な場です。この場で発表・検討されたことがお互いの活動意欲を高め、ひいては滋賀の社会福祉向上につながることを目指します。

1) 発表時間

1題につき、発表10分 質疑応答8分(計18分)

2) 自由研究発表(分科会) 分野及び発表題数

分科会	分 野	発表数
分科会1	高齢者福祉①	8題
分科会2	高齢者福祉②	8題
分科会3	高齢者福祉③	8題
分科会4	地域福祉	9題
分科会5	障害児・者福祉	8題
分科会6	I 子ども家庭福祉 II 災害支援 III 社会福祉一般	8題
ポスター		1題
合 計		50題

※詳細は、自由研究発表プログラム一覧を参照してください。

3) 社会福祉学会奨励賞

自由研究発表の中から「社会福祉学会奨励賞」を選び、研究を奨励します。また、奨励賞に選ばれた発表の概要は、研究誌『滋賀社会福祉研究第20号』(平成30年2月発行予定)に掲載し、広く公表します。

4) プライバシーの遵守

発表のなかには、実際の事例等を取り上げたものが多くあります。事例は発表者が自らの研究成果を披露し、討議することで、参加者と共に研鑽を図ろうという目的で提供されるものです。発表者および参加者は、プライバシーの遵守に十分配慮してください。

《一般参加の皆さんへ》

- ・一般参加者は、この「プログラム」や当日配布する「学会要旨集」をご覧のうえ、各自が聞きたいと思う発表に自由に参加することができます。
- ・分科会間の移動は自由です。ただし、発表中の移動はご遠慮ください。
- ・各分科会には、各会場の定員数のイスを用意しています。参加者が多い場合は、イスに座れないこともありますので、ご了承ください。

第35回滋賀県社会福祉学会 自由研究発表プログラム一覧

第1分科会〔高齢者福祉①〕

○＝発表者

No.	発表時間	発表テーマ	所属機関・団体	研究者氏名
オリエンテーション				
1	13:10 13:15	認知症のある夫婦の絆を守るために私達にできること	社会福祉法人 甲南会 特別養護老人ホームせせらぎ苑	○ 高井 大地 ○ 岡田 美津枝 植村 香帆 奥島 美代子 江口 博輝 谷 彰人
2	13:35	ロックによる認知症研修の可能性を探る	社会福祉法人 達真会 高齢者介護総合福祉施設 多賀清流の里	○ 江谷 政芳
3	13:55	看取り状態のショートステイ利用者の受け入れにおける生活相談員の役割～事例を通して～	社会福祉法人 恩賜財団済生会 特別養護老人ホーム淡海荘	○ 永原 聡
4	14:15	多職種連携が支えた独居高齢者の在宅看取り	甲賀市社会福祉協議会 ヘルパーステーションつちやま	○ 宇田 陽子 松村 典子 松本 久代 宇野 真由美 今村 真美 小嶋 直子 山村 裕利佳
5	14:35	看取りのケアブック ～最期に寄り添うために～	社会福祉法人 青祥会 特別養護老人ホーム坂田青成苑	○ 野瀬 由紀子 藤田 恵子 末廣 まどか 廣部 真樹 北野 富美代
休憩〔14:55～15:10〕				
6	15:10	五感を使った食事の取り組み	社会福祉法人 近江和順会 特別養護老人ホーム ヴィラ十二坊	○ 木村 要 瀬古 千代 寺島 優衣 児島 深雪 鳥居 祐太郎 井口 紀久代
7	15:30	幸せを噛みしめて ～綺麗な口で安全に、楽しい食事を～	社会福祉法人 グロー 特別養護老人ホーム ふくら	○ 山中 厚美 ○ 木下 智恵子 ○ 江菅 李保 中島 美樹 森 健一郎 中尾 明美
8	15:50	四季折々の行事食と実演調理について ～直営ならではの取り組み～	社会福祉法人 真盛園	○ 辻 雄介 ○ 天田 勇司 ○ 樫田 富義 西田 実 松井 竜也 前畑 政昭

第2分科会〔高齢者福祉②〕

○=発表者

No.	発表時間	発表テーマ	所属機関・団体	研究者氏名
	13:10	オリエンテーション		
1	13:15	生涯現役！！～自分たちが主役～ 達成感を生きがいに	社会福祉法人 慈恵会ゆいの 里 守山デイサービスセンター	○ 田中 久子 ○ 藤井 久美 嘉住 みわ 西山 美晴
2	13:35	後期高齢期をいかに生きるか	特定非営利活動法人どろんこ	○ 保井 きよ美 石黒 静江 保井 五雄
3	13:55	おしゃべりで健康寿命をのばそう！	堅田おしゃべりボランティア	○ 後藤 千津 山口 寿津子
4	14:15	園児とふれあうスタンプラリー	唐崎学区社会福祉協議会	○ 羽田 和明
5	14:35	「1人は、みんなのために」～チームで取り組む排泄ケア～	社会福祉法人 青祥会 特別養護老人ホーム 青浄苑	○ 清水 映里 藤田 英子 磯崎 仁美 加納 恵子 富岡 裕香 中村 節子
休憩〔14:55～15:10〕				
6	15:10	役割作りと環境の工夫	米原市社会福祉協議会 いをぎの家	○ 時田 智史 廣瀬 良子 中島 清陽 高島 浩子 下司 弘美 松居 芳子 村瀬 富美
7	15:30	住み慣れた我が家で暮らし続けるために老健が担う役割 ～在宅復帰に向けた本人・家族の不安への支援～	社会福祉法人 青祥会 介護老人保健施設 長浜メディケアセンター	○ 田村 朗子 西山 裕典 藤末 法信 古谷 育世 西堀 悦子
8	15:50	滋賀県における主任介護支援専門員研修事業 ―「主任介護支援専門員フォローアップ研修」及び「地域同行 型実地研修」の取り組み―	滋賀県介護支援専門員連絡 協議会	○ 岡戸 佳恵美 鈴木 則成

第3分科会〔高齢者福祉③〕

○＝発表者

No.	発表時間	発表テーマ	所属機関・団体	研究者氏名
	13:10	オリエンテーション		
1	13:15	自立支援に向けた活動報告～リハビリテーション職と通所介護職員との関わり方～	長浜市社会福祉協議会 介護事業課	○ 上野 浩司
2	13:35	地域の安心につながる総合事業をめざして	社会福祉法人近江ちいるば会 デイケアの家おしどり	○ 木内 重雄
3	13:55	「できる行為」を増やす小規模型(地域密着型)通所介護を目指して	鈴木ヘルスケアサービス株式会社 甲良町デイサービスセンターかつらぎ	○ 村田 裕子 小野 満美 疋田 祐貴子 藤井 芳子 鈴木 則成
4	14:15	送迎から始まる通所リハ ～危険予知トレーニング送迎介助版の実施をとおして～	社会福祉法人 青祥会 介護老人保健施設 坂田メディケアセンター	○ 長谷川 清 上田 善則 中山 ひろ子 中川 幸男 池田 ますみ
5	14:35	その人は何を求めていたのか～ある親子の事例から感じた関わりへの考察と葛藤～	社会福祉法人 真盛園 真盛園居宅介護支援事業所	○ 住田 直子 ○ 八木 さおり 西村 祐三子
休憩〔14:55～15:10〕				
6	15:10	在宅医療福祉職応援事業の果たす役割	一社)彦根愛知犬上介護保険 事業者協議会	○ 田島 明美 鈴木 則成 菅原 幸一 辻 広美 上林 千春
7	15:30	歯科における認知症対応について —認知症があっても普通に受診できる歯科をめざして—	医療法人白櫻会 小金沢歯科診療所	○ 小金澤 一美
8	15:50	モチベーションを上げる為に～サンクス・グッジョブカードを用いて～	社会医療法人 誠光会 介護老人保健施設 草津ケアセンター	○ 吉岡 卓哉 岸 慎 早坂 友加里 高橋 知子

第4分科会〔地域福祉〕

○=発表者

No.	発表時間	発表テーマ	所属機関・団体	研究者氏名
	13:10	オリエンテーション		
1	13:15	外出支援ボランティアの立ち上げに向けて	高島市社会福祉協議会	○ 宮田 早苗
2	13:35	「地域住民主体のサロン」活動の今後の運営あり方と継続について	鹿跳倶楽部	○ 岸本 弘己 中西 英四郎 服部 清志 中山 幸子 堤 英幸
3	13:55	住民によるみまもり活動 おまかせパトロール	藤尾学区社会福祉協議会	○ 片岡 定男 亀井 須美枝 奥田 礼子
4	14:05	見守り支えあいの地域づくり～認知症徘徊模擬訓練を通して～	勅旨区健康福祉会	○ 宇田 ルリ子 大谷 喜久 相楽 明子
5	14:35	民生委員児童委員6年間の総括と課題	近江八幡市桐原学区健康福祉部会学校応援団	○ 上森 昭平
休憩〔14:55～15:10〕				
6	15:10	音楽療法自主グループ「ひばり」11年間の歩み	“脳いきいき”自主グループ「ひばり」	○ 森田 英子
7	15:30	ボランティアが活躍する社会を目指して ～ある福祉職が考えたこと～	医療法人 滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	○ 藤田 知幸
8	15:50	『地域で創る土曜日「夢の学習」』を地域福祉活動の拠点に	地域で創る土曜日「夢の学習」 推進委員会	○ 摺本 圭治 名倉 勇 小川 久実 鈴木 泰子 伊藤 康雄 瀧井 ちづる
9	16:10	ボランティア連絡協議会の可能性 ～生活支援ボランティアすぷーんの立ち上げまで～	甲賀市社会福祉協議会	○ 桑山 信彰

第5分科会〔障害児・者福祉〕

○=発表者

No.	発表時間	発表テーマ	所属機関・団体	研究者氏名
	13:10	オリエンテーション		
1	13:15	身体を動かして得る爽快感へのチャレンジ ～入所利用者の実態から～	社会福祉法人近江ふるさと会 障害者支援施設ふるさと	○ 高岸 さゆり 森田 由美
2	13:35	小児期に外傷性脳損傷を負った1症例の半世紀から学ぶ —経過と問題点—	社会福祉法人グロー 滋賀県高 次脳機能障害支援センター 県立むれやま荘障害者総合 診療所	○ 三田村 麻奈 田邊 陽子 小西川 梨沙 島田 司巳
3	13:55	医療的ケアの必要な在宅障害児への喀痰吸引有資格者ヘル パーの実践ケースについて	社会福祉法人 びわこ学園障害者支援センター ヘルプステーションちよこれーと。	○ 田中 さつき
4	14:15	発達障がいのある子どもたちへの地域小学校(特別支援学級) 就学支援	滋賀県立小児保健医療センター 療育部	○ 天田 美恵
5	14:35	二次障害予防の取り組み	滋賀県立むれやま荘	○ 出野 津与志 前田 智仁 宮川 和彦
休憩〔14:55～15:10〕				
6	15:10	つながりの中で見つける新しい世界	(株)LSH Quocare	○ 小川 菜緒
7	15:30	知的障がい者施設におけるコミュニケーションとしてのスクイグル	社会福祉法人 すぎやまの家 杉山寮	○ 川内 純子
8	15:50	『自分を守る』取り組みについて～生と性の教育の一環より～	滋賀県立 近江学園	○ 湯ノ口 恵理子 鹿井 多恵子 小嵐 佳奈美 高橋 房子 佐藤 綾子 西村 朋子 池田 美保子 明瀬 まみ 加藤 麻美子

第6分科会〔Ⅰ 子ども家庭福祉 Ⅱ 災害支援 Ⅲ 社会福祉一般〕

○＝発表者

No.	発表時間	発表テーマ	所属機関・団体	研究者氏名
オリエンテーション				
1	13:10 13:15	続・滋賀県内の児童福祉施設退所者の実態からみる施設内 養育(インケア)のあり方について	滋賀県児童福祉入所施設協 議会 調査研究部会	○ 村田 芳子 打田 絹子 森本 美絵 森田 善治 川副 馨 山本 栄吉 田辺 善行 堺 稔 小西 妙子 藤本 邦子 林 康次郎 本好 彩乃 松井 計昌 西本 一彦 鹿井 多恵子
2	13:35	児童養護施設「鹿深の家」における「食育課」の設置とその効果	奈良教育大学 教育学部	○ 永田 苑 宮川 哲治 奥村 はるか 石田 慶子 立松 麻衣子
3	13:55	保育の社会化	社会福祉法人 幸栄会 緑波くるみ保育園	○ 藤田 孝子 駒井 芳子
4	14:15	平成28年度子ども虐待対応における児童相談所と市の連携 について	大津市役所 子ども家庭相談室	○ 岡田 正弓 ○ 岡本 亜佑美 織田 善真 関本 彰宏 中島 円実
5	14:35	災害時利用者台帳の作成～台帳から見えてきたもの～	社会福祉法人 野洲慈恵会 悠紀の里居宅介護支援事業 所	○ 得原 菊恵 山田 育代 渡辺 章子 山藤 央恵
休憩〔14:55～15:10〕				
6	15:10	黄色いバンダナを広めたい！ ～聴覚障害者 障害の発信と受信の取り組み～	手話サークル すずらん	○ 田淵 千恵子 的場 一枝 町田 義孝 今井 寛
7	15:30	福祉業界による福祉業界のための男女交流イベントの意義と 課題 ～「福こい・縁結び」事業の実践を振り返って～	滋賀の縁創造実践センター 縁結び・つながりづくり小委員会	○ 口村 淳 小島 健史 高橋 幸子 山本 重夫 寺田 恵美子 文野 真理子
8	15:50	被災者の立場(経験)から「災害時に生き抜く力」を考える。 ～安全神話もほどほどに～東日本大震災避難者より	語り部ボランティア「ぬくもり」	○ 館 孝四 ○ 館 展子

ポスター発表

○＝発表者

No.	発表時間	発表テーマ	所属機関・団体	研究者氏名
1	14:55	お一人さま高齢者の困りごとに関する調査・研究 ～ずっとあんしん事業の実現に向けて～	大津市社会福祉協議会	○ 葛城 朋子 奥田 佑子 奥村 寛之 山崎 晴美 奥野 佑樹

7 手話通訳等

- ・全体プログラムには、手話通訳者、要約筆記者を依頼します。
- ・自由研究発表の時間帯に、手話通訳者、要約筆記者等をご希望の場合は、申し込み時にその旨をご記入ください。

8 昼食

昼食は各自でご用意ください。なお、当日は受付にて弁当の予約販売も予定しています。

9 申込・お問い合わせ先

滋賀県社会福祉学会 事務局

滋賀県社会福祉協議会 事業部門 地域福祉担当

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号 県立長寿社会福祉センター内

電話：077-567-3924 FAX：077-567-5160

e-mail：shiga-gakkai@shigashakyo.jp



- JR 瀬田駅から
帝産バス「長寿社会福祉センター行」または「滋賀医大行」
(所要時間約15分)
- JR 南草津駅から
近江バス「長寿社会福祉センター行」、または帝産バス「草津養護学校行」
(所要時間約20分)
- 新名神高速道路草津田上ICから、所要時間約5分

☆県立長寿社会福祉センターの室温設定について☆

本会では、燃料資源の有効活用と地球温暖化防止推進のため、国・県が推進する「省エネルギー対策」にあわせ、当センター内研修室等の冬期室温設定を20℃にさせていただきます。

つきましては、本会取り組みにご理解いただきますとともに、ご参加いただく際にはWARMBIZ(ウォームビズ)等の工夫をお願いします。

